

宇部市桃山中学校地下埋設高圧ケーブル 切断事故調査委員会（第1回）会議概要

日 時：令和4年12月12日(月) 15時00分～17時00分
場 所：宇部市役所本庁舎 3階会議室 (3-4)

1 出席者

- (1) 委員 立山委員、鶴委員、大野委員（全員出席）
- (2) 説明部（教育委員会事務局）4人
- (3) 調査委員会事務局（総務部）6人
- (4) 防災危機管理監、広報広聴課1人

2 会議概要

- (1) 委嘱状の交付
副市長から各委員に委嘱状が交付された。
- (2) 副市長あいさつ
- (3) 委員長及び副委員長の選任
委員の互選により、委員長に立山委員、副委員長に鶴委員が選任された。
- (4) 諮問書の手交
副市長から立山委員長に諮問書が手交された。
- (5) 議 題
 - ア 資料配付について
事務局から委員へ資料が配付された。
 - イ 概要説明について
教育委員会事務局職員から、ケーブル切断事故の概要説明が行われた。
- (6) 委員からの主な意見等
 - 一言で「公表」といっても、何のために公表するかにより異なるのではないか。事故の発生により、市民の身体、財産等に何らかの侵害が生じるから公表するのか、係争中で財政に不利益を与えるから公表するのか、何を目的とするかによって、その時期や方法も異なるのではないか。その辺りを明確にして、公表のルールを定めることが適当ではないか。
 - 手当たり次第に何でもオープンにするのも無責任な気がする。東日本大震災のとき、原子力発電所の事故に関し、直ちに健康被害があるものではありませんという記者会見が頻繁に開かれたのは良いが、あれほどの規模の原子力災害を経験していないこともあって、住民側は逆にかなり不安を持った部分もある。その辺りは、相当デリケートな問題だと思う。
 - 現行の「宇部市危機管理指針」では、どの時点でどの程度、どのような公表をするか分からないので、もう少し明確化し、全職員が少なくとも概略は知っておく必要があると思う。調査委員会としては、答申書の最後に提言という形で整理すれば良いのではないか。

- 法的には、政府や行政が自発的に全ての情報を公表する義務があるというわけではないが、なぜ公表するかといえば、それは、市民からの信頼を得ること、また民主主義の観点から情報公開することとなる。その観点からは、基本的に情報公開することは望ましく、情報公開した上で、市がどのような考え方を持っているか提示し、その考え方に対し、市民がどのように判断するか任せるものであり、原則として公表が正しいあり方だと思う。
 - このたびのケースは、段階的に公表するのが最も適切だったと思う。例えば、事故で身体の危険があるときには、危険が迫っていることを伝えなければならぬし、また、解決した後に、いくら支払うか決まったときは、その金額を公表しなければ、財政民主主義からするとおかしな話となる。
 - 事故が発生して半年以内を目処として、何らかの方法で一応の概要を公表すべきではなかったか。
- (7) 次回開催日時
令和5年1月12日(木) 14時～16時
(後日、令和5年1月13日(金) 14時～16時に変更)

以 上

宇部市桃山中学校地下埋設高圧ケーブル 切断事故調査委員会（第2回）会議概要

日 時：令和5年1月13日(金) 14時00分～15時30分
場 所：宇部市役所本庁舎 5階 第1委員会室

1 出席者

- (1) 委員 立山委員長、鶴副委員長、大野委員（全員出席）
- (2) 説明部（教育委員会事務局）4人
- (3) 調査委員会事務局（総務部）6人
- (4) 防災危機管理監、広報広聴課1人

2 会議概要

- (1) 議題
答申書について
- (2) 委員からの主な意見等
 - 答申書においては、結論の要約・ポイントを冒頭に記載した方が良いのではないかと。そうすることで、全てを読まずとも結論が把握でき、また、読み進める際に理解が進む。
 - 第1段階として事故対応の時期、第2段階で責任の所在を議論していた時期、第3段階で損害の範囲を議論していた時期、これらで区切り、それぞれで最も適切なものを調査委員会で考えるということが良いのではないかと。
 - 宇部興産との協議段階であっても、宇部興産から損害賠償請求を受けていること、また、双方が弁護士を立てて交渉していること程度は公表しても良かったのではないかと。
 - 他市のマニュアルを参考に、宇部市版の公表マニュアルを作成すれば良いのではないかと。
 - 関係者のヒアリングについては、資料記載の内容について確認を行う目的で実施したい。ヒアリングは、責任追及する場ではなく、あくまでもお願いという形で。強制ではない。
- (3) 次回開催日時
令和5年2月3日(金) 14時～16時

以 上

宇部市桃山中学校地下埋設高圧ケーブル 切断事故調査委員会（第3回）会議概要

日 時：令和5年2月3日(金) 14時00分～16時00分
場 所：宇部市役所本庁舎 5階 第1委員会室

1 出席者

- (1) 委員 立山委員長、鶴副委員長、大野委員（全員出席）
- (2) 調査委員会事務局（総務部）6人
- (3) 防災危機管理監、広報広聴課2人

2 会議概要

- (1) 議 題
答申書について
- (2) 委員からの主な意見等
 - 答申書の冒頭に、結論の要約・ポイントを記載する場合、その要約・ポイントが、後頁記載の「結論」のどの部分に該当するのか、「何頁参照」のように記載すれば分かりやすいのではないか。
 - 答申書冒頭の結論の要約・ポイントの文量が少し多いので、もう少し圧縮しても良いのではないか。
 - 答申書の中で「情報リリース」という言葉を使用しているが、他に「情報提供」という言葉もあり、全体の用語の整理が必要ではないか。
 - 「公表の方法」として、これまでは「市長等記者会見」、「報道発表」、「情報提供」の3種類を記載していたが、これに「窓口対応」を追加してはどうか。
 - 関係者ヒアリングについては、事故発生当時の防災危機管理課長と、危機管理段階を終えて、相手方との交渉や内部協議に携わった教育委員会事務局参事としてはどうか。
- (3) 次回開催日時
令和5年2月20日(月) 14時～16時

以 上

宇部市桃山中学校地下埋設高圧ケーブル 切断事故調査委員会（第4回）会議概要

日 時：令和5年2月20日(月) 14時00分～16時00分
場 所：宇部市役所本庁舎 5階 第1委員会室

1 出席者

- (1) 委員 立山委員長、鶴副委員長、大野委員（全員出席）
- (2) 調査委員会事務局（総務部）6人
- (3) 防災危機管理監、広報広聴課1人

2 会議概要

- (1) 議 題
 - ア 関係者ヒアリング
事故発生当時の防災危機管理課長（当時）、相手方との交渉や内部協議に携わった教育委員会事務局参事（当時）2名に対するヒアリングが行われた。
 - イ 答申書について
- (2) 委員からの主な意見等
 - ヒアリングを終えて、これまで協議してきた答申書の内容に大きな変更はないと思う。
 - 1点付け加えるとすれば、答申書の「提言」の部分において、広報担当課との横のつながりが1つのキーワードになってくるのではないか。
 - 答申書の「時期ごとの検討」における時期の区切りについては、このままで良いと思う。
- (3) 次回開催日時等
令和5年3月6日(月)（書面会議）
なお、次回の書面会議で答申書が確定した場合、市長への答申は令和5年3月13日(月)

以 上

宇部市桃山中学校地下埋設高圧ケーブル
切断事故調査委員会（第5回）会議概要

日 時：令和5年3月6日(月)
場 所：書面会議

1 出席者

立山委員長、鶴副委員長、大野委員（全員出席）

2 会議概要

(1) 議 題

答申書について

（答申書等が全委員に配付され、書面による会議が開催された。）

(2) 採決の結果

全会一致により答申書が確定した。

以 上